

平成26年度「支援機器等教材を活用した指導方法充実事業」成果報告書

団体名	徳島県
研究開始年度	平成26年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校名	障害種
徳島県	徳島県立徳島視覚支援学校	視覚障がい
徳島県	徳島県立徳島聴覚支援学校	聴覚障がい

2 研究テーマ

タブレットPCを活用した視覚障がい教育・聴覚障がい教育の指導力の向上と効果的な生活支援，地域支援の実践研究

3 研究の概要

視覚障がい，聴覚障がいのある児童生徒等は，情報の獲得に難しさがあることから，障がいの状態や特性に応じた情報保障の支援が必要である。学習及び生活場面にタブレットPCを活用することにより，視覚障がい，聴覚障がいのある幼児児童生徒への効果的な情報保障や学習環境の向上を図ることを目指して研究に取り組んだ。

タブレットPC活用に向け，外部専門家との連携を図り，徳島視覚支援学校に視覚障がい教育充実運営会議，徳島聴覚支援学校に聴覚障がい教育充実運営会議を設置した。また，両校併置を活かし，両校合同の指導方法充実運営会議を設置し，両校が共有している保健室や寄宿舎でのニーズに対応したコミュニケーション部会を立ち上げ，校内研究体制を整備した。タブレットPCを各学部及び保健室と寄宿舎に配置するとともに，Wi-Fiを配備し，ICT環境を整えた。

個々の幼児児童生徒の障がいの状態や特性に応じて，タブレットPCを活用するためには，教員がタブレットPCの活用やアプリについて理解し，活用スキルを身に付けることが必要である。そのために，視覚障がい教育や聴覚障がい教育におけるタブレットPC活用の専門家や，機器の管理やデジタル教材作成における専門家による研修及び相談支援を定期的実施し，教員のタブレットPC活用スキルの向上を図った。

各校で個々の幼児児童生徒の障がいの状態や特性に応じて，タブレットPCを活用した指導実践を行い，タブレットPC活用事例を集積した。代表的な取組については，次のとおりである。

徳島視覚支援学校の幼児児童生徒は，視野やまぶしさ等，弱視による見え方の状況が，個々によって異なっている。高等部生徒については，資料配付やノートテイクの場面で，教材の大きさを変えたり，書き込みができたりするアプリを活用し，生徒の見え方に対応した教材活用についての実践を行った。

徳島聴覚支援学校小学部では，8割の児童は小学校の教育課程に準ずる教育を行う学級に在籍している。児童は補聴器や人工内耳の装着により聴力を補っているが，通常の話声を聴き取ることは困難で，聴覚活用を基盤に，口話，手話，指文字等のコミュニケーション手段を活用している。獲

得語彙数が少ないために問題文から正確に情報を得られず、題意を把握しにくいことや、覚えることに時間を要するという実態がある。算数科において、教材を視覚的に示し手書き入力操作ができるアプリ等を用い、言葉を使って考える力を育てる指導実践に取り組んだ。

保健室及び寄宿舎ではコミュニケーションツールとして、タブレットPCの筆談アプリ等を活用した実践に取り組んだ。

特別支援学校のセンター的機能による地域の学校等への成果普及については、次のように取り組んだ。県内の視覚障がいの子供生徒及びその保護者が参加するサマースクールやウインタースクールで、タブレットPC利用体験を実施した。また、県内の弱視学級担当教員や難聴学級担当教員等を対象とし、外部講師を招聘したタブレットPC研修会を実施した。通級指導教室においては、タブレットPCで作成した教材を活用して児童への情報提示方法を検討し、指導の効果を上げることができた。特別支援学校巡回相談員はタブレットPCを活用して児童生徒支援のための資料を作成し、相談活動において活用するとともに、タブレットPC使用を体験する機会を作った。

4 研究の成果及び課題

外部専門家を活用した研修や相談支援により、教員はタブレットPC活用スキルを身につけることができ、アクセスビリティやアプリの活用を工夫することにより、指導内容を豊かにし、多様な指導方法を展開することができた。また、タブレットPCの管理及びデータの取り扱い方法等に関する知見を得ることもできた。

教員のタブレットPC活用スキル向上により、授業における視聴覚教材の活用が高まり、幼児児童生徒への情報保障ができ、よりわかりやすい授業となった。幼児児童生徒は視聴覚教材を操作して活用することで主体的に学ぶことができ、授業への集中力や意欲の向上が見られた。タブレットPCを活用した指導実践では、徳島視覚支援学校高等部生徒は、アプリの活用を通じ、大きさに調整して資料等を見ることや、書き込みを行うことができ、授業中の確認や授業後の復習が確実にできるようになり、学習の効率が高まった。徳島聴覚支援学校小学部児童は、教材の視覚的提示や書き込みのできるアプリの活用等により難しさのあった算数の文章問題の読み取りができるようになる等、教科学習の理解が深まった。

徳島視覚支援学校、徳島聴覚支援学校が共に利用する保健室と寄宿舎においては、コミュニケーションの円滑化に効果があった。

地域の学校への成果の普及においては、研修や体験を通じて、弱視学級及び難聴学級担当者等にタブレットPCの活用方法について学ぶ機会を作ることにより、タブレットPCを活用した指導への関心を高めることができた。

今後の課題としては、次のことがあげられる。

各学部でのタブレットPCを活用した授業実践の内容をさらに充実させるために、個々の教員が作成した教材を集約してデータベースを作成することが必要であり、データベースの運用を含め、情報交換がよりスムーズに行えるような方法を工夫しなければならない。

コミュニケーションツールとしてのタブレットPCの活用については、幼児児童生徒及び教員、寄宿舎指導員相互のスキルの向上が課題であり、今後一層研修の充実に努めたい。

セキュリティやネットワークの利用制限により難しい現状があるが、巡回相談や家庭等の校外でタブレットPCの機能を十分に活用できるような環境の構築が必要である。

取組の成果を小・中学校や他の特別支援学校でも活用できるよう，県内の関係機関とのより緊密な連携を築いていきたい。